令和４年度　広島県病害虫発生予察情報　予報第５号（水稲）

令和４年８月１日発表（対象期間：令和４年７月下旬～ ８月上旬）

1-（1）　水稲病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
いもち病 （葉いもち 穂いもち）	中西部・中東部	やや多	やや多	・出穂前後の降雨により，穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期，穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底しましょう。 ・にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため，ほ場を見回り，葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。
	南部・北部	並	並	
紋枯病 ※中北部：中東部，中西部，北部	※中北部	多	多	・高温多湿の条件で感染が進み，発病株率が増加するので注意が必要です。 ・昨年，発生が多かったほ場は注意が必要です。 ・防除を行う判断の目安は，穂ばらみ期の発病株率が，早生品種で10%以上，中生品種で20%以上になった時です。 ・防除対策は，令和４年度病害虫発生予察情報技術情報第２号を参照下さい。
	南部	やや少	並	
セジロウンカ		少	少	・７月下旬の巡回調査では少発生でした。 ・要防除水準；幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ		並	並	・トビイロウンカの幼虫は，株元に多く点在するため，粉剤や液剤により防除を行う場合は，薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。 ・要防除水準：飛来後第２世代幼虫５頭/株以上
斑点米カメムシ類		やや多 （アカスジカスミカメ）	やや多	・出穂期防除を逸しないようにしましょう。 ・出穂期近くになっての畦畔などの除草は，カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控え，中生では出穂２週間前までに除草を終えましょう。

1-（2）	水稲病害虫の現況と予報（詳細）

①-１ いもち病 中東部・中西部

予報の根拠

（＋）:多発要因，（±）:平年並，（－）:少発要因

●7月下旬巡回調査では，葉いもちは中東部，中西部で多く発生が見られており，発生地点率はそれぞれ57.1%（平年42.4%），77.8%（平年56.4%）で，過去10年でそれぞれ３番目，４番目に高くなっています（＋）。
●早生品種は，発生地点率が50.0%（平年45.0%）で過去10年で４番目に高くなっており（±）:，中生品種では，発生地点率が87.5%（平年56.3%）で過去２番目に高くなっています（＋）。
●中国地方１か月予報では，晴れの日が多く気温が高いため，いもち病の発生を抑制します（－）。

【防除上の注意事項】
●４月中～下旬田植えの品種では，箱施用剤の効果が弱まっている可能性があるため，ほ場での発生を確認し，発生が見られた場合は防除を行いましょう。
●出穂前後の降雨により，穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期，穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底しましょう。
●にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため，ほ場を見回り，葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。
●葉いもちが多発しているほ場では穂ぞろい期防除の７～１０日後に追加防除を行いましょう。
●以下の「ひろしま病害虫情報　病害虫図鑑（普通作物）」もご覧下さい。

【巡回調査データ】

葉いもち　発生地点率（中部・早生　8地点）

葉いもち　発生程度（中部・早生　8地点）

葉いもち　発生地点率（中部・中生　8地点）

葉いもち　発生程度（中部・中生　8地点）

①-２ いもち病 北部・南部	葉いもち	現況	予報	穂いもち	現況	予報
予報の根拠						
（＋）:多発要因，（±）:平年並，（－）:少発要因						

●7月下旬巡回調査では，県全域では平年並みの発生（±）でした。
●中国地方１か月予報では，晴れの日が多く気温が高いため，いもち病の発生を抑制します（－）。

【防除上の注意事項】
●４月中～下旬田植えの品種では，箱施用剤の効果が弱まっている可能性があるため，ほ場での発生を確認し，発生が見られた場合は防除を行いましょう。
●出穂前後の降雨により，穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期，穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底しましょう。
●にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため，ほ場を見回り，葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。
●以下の「ひろしま病害虫情報　病害虫図鑑（普通作物）」もご覧下さい。

https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html

【巡回調査データ】

BLASTAMによる「いもち病の危険度」の推定

地帯別「いもち病の感染好適日」の累積日数

※ いもち病の発生しやすさを予測するシステム：BLASTAM（ブラスタム）を用いて，気象庁のアメダスデータ（気温，降水量，風速，日照）から，葉面の湿潤時間を計算し，いもち病が発生しやすい条件となる日：感染好適日を推定しています。

※ 累積感染好適日とは，BLASTAMによる感染好適日を累積したものです。値が大きい程いもち病の発生リスクが高いと予想されます。

※ 7月2～4日の期間は通信障害があったため，７月１半旬以降のデータについては，実際よりも低く推定されている可能性があるので注意してください。

感染好適日の累積日数（中東部地帯）

月/半旬

感染好適日の累積日数（北部地帯）

月/半旬

感染好適日の累積日数（南部地帯）

月/半旬

感染好適日の累積日数（中西部地帯）

月/半旬

②-1　紋枯病　中北部

※中北部：中東部，中西部，北部

予報の根拠		現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●7月下旬巡回調査では，中東部，中西部，北部で発生が見られており（＋），平均発生株率は過去10年で最も高くなっています（＋）。 ●中国地方１か月予報では，気温が高く，紋枯病の発生を助長します（＋）。		

【防除上の注意事項】

●詳細は技術情報を参照下さい。

●高温，多湿を紋枯病菌は好みます。夏期高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは防除を徹底しましょう。

●薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期。薬剤は，病患部の葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。

●要防除水準：穂ばらみ期の発病株率が，早生品種で10%以上，中生品種で20%以上。

【巡回調査データ】

②-2　紋枯病　南部

予報の根拠		現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●7月下旬巡回調査では，発生が見られませんでした（－）。 ●中国地方１か月予報では，気温が高く，紋枯病の発生を助長します（＋）。		

③ セジロウンカ

予報の根拠		現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●7月下旬巡回調査では，少発生でした（－）。 ●予察灯では７月４半旬に１頭（呉市），予察田（呉市）では７月２半旬に２頭，５半旬に10頭，６半旬に24頭確認されました（－）。 ●中国地方１か月予報では，気温が高く増殖に好適です（＋）。		

【防除上の注意事項】

●イネをよく観察して，飛来した成虫の早期発見に努めましょう。飛来直後はおもにイネ株の上層に生息し動きは活発であるが，日がたつと株元付近にいることが多く見られます。

●要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に１０頭/株以上

●ウンカ類の払落し調査方法については，「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧下さい。

長翅型成虫

中老齢幼虫

【巡回調査データ】

④ トビイロウンカ

予報の根拠		現況	予報
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●7月下旬巡回調査では確認されませんでしたが（－），農業技術センター現地調査（世羅町）では７月25日に１頭確認されました（±）。 ●予察灯（尾道市）では７月３半旬に１頭確認されました（±）。予察田（呉市）では確認されませんでした（－） ●中国地方１か月予報では，気温が高く増殖に好適です（＋）。		

【防除上の注意事項】

●トビイロウンカは，卵や成虫に対する薬剤効果が低いため，幼虫発生盛期が防除適期となります。

●トビイロウンカの幼虫は，株元に多く点在するため，粉剤や液剤により防除を行う場合は，薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。

●要防除水準：飛来後第２世代幼虫５頭/株以上

●ウンカ類の払落し調査方法については，「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧下さい。

【巡回調査データ】

長翅型成虫

中老齢幼虫

⑤ 斑点米カメムシ類		現況	予報
予報の根拠 （＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●アカスジカスミカメの７月５半旬までの予察灯（呉市）への累積誘殺数は229頭（平年124.2頭）となっており，過去10年で３番目に高くなっています（＋）。 ●7月下旬の早生品種本田すくい取り調査における要防除水準を超えるほ場の割合は44.8%です（+）。 ●イネカメムシの7月下旬の早生品種本田すくい取り調査における発生地点率は14.3%（28地点中4地点）で，南部の一部で発生が見られています。 ●中国地方１か月予報では，気温が高く増殖に好適です（＋）。	（アカスジカスミカメ）	

【防除上の注意事項】

●斑点米被害は，カメムシ類の成虫または幼虫がイネの出穂期以降に穂を吸汁し，吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで起きます。したがって，防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。但し，近年沿岸地域を中心に発生・被害が拡大しているイネカメムシについては，穂ばらみ期の水田に侵入することが確認されており，多発時には出穂前の防除も実施しましょう。

●早生は，出穂が早いため防除時期を逸しないようにしましょう。

●出穂期近くになっての畦畔などの除草は，カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂２週間前までに除草を終えましょう。

●要防除水準：（カスミカメ類）４頭以上／２０回振り，（その他加害種）２頭以上／２０回振り

●防除時期：（カスミカメ類）出穂期～その１０日後に１～２回。
（その他加害種）出穂７日後～１４日後に　１～２回。
※イネカメムシは出穂期とその10日後に防除することが効果があると言われています。

●斑点米カメムシ類の調査方法については，「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧下さい。

A:アカスジカスミカメ，B:フタトゲムギカスミカメ，その他加害種C:クモヘリカメムシ，D:ホソハリカメムシ，E:イネカメムシ

2　その他の病害虫の発生状況

病害虫名	現況	防除状の注意事項
稲こうじ病	―	詳細は，令和４年度病害虫発生予察情報技術情報第２号を参照下さい。
ヒメトビウンカ		出穂前後の防除を徹底して下さい。また，縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ		穂ばらみ期防除を基本に実施しましょう。
コブノメイガ		中生以降の品種で被害株率２０％を超える場合，粉剤・液剤は発蛾最盛期の７日後，粒剤は発蛾最盛期に追加で防除を行いましょう

3　中国地方１か月予報

（広島地方気象台７月28日発表，７月30日から８月29日までの天候見通し）

●平年と同様晴れの日が多いでしょう。
●向こう１か月の平均気温は、高い確率が50%です。
●週別の気温は、１週目・２週目・３～４週目のいずれの期間も、平年並または高い確率ともに４０％です。

図1．向こう１か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率（%）

図2．向こう１か月の気温経過の各階級の確率（%）

4　農薬危害防止運動について

６月１日から８月３１日まで，**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は，容器のラベルをよく読んで，使用方法や注意事項を守り，農薬による危害と事故を防ぎましょう。

5	用語説明について

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は，「多，やや多，並，やや少，少」の５階級に区分しています。区分は，原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ，相対比較しています。

「多」　：　１番目（最多年）と同程度以上
「やや多」　：　２～３番目と同程度
「並」　：　４～７番目と同程度
「やや少」　：　８～９番目と同程度
「少」　：　10番目（最少年）と同程度以下

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報　検索

掲載アドレス↓
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
QRコードはこちら　→

お問合わせ先
広島県西部農業技術指導所　植物防疫チーム
〒739-0151　東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）